

2023年10月 JICA 月次レポート

生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業

<活動状況>

1. ラジオトークショーの実施
2. 利用者の増加を目的としたラジオスポットメッセージ（コマーシャル）の放送
3. 対象校においてモニタリングの実施（ムベンデ県・ワキソ県）
4. Happy-Pad プロモーションセンター（ブタンバラ県）

1. ラジオトークショーの実施

ムベンデ県では10月25日にチバリンガ準郡のLuna FMより1時間のラジオトークショーを実施した。保護者に向けて、学校での布ナプキン作製活動に必要な生地などの材料を提供の協力をすることに加え、ナプキンがないことを理由に学校を欠席することがないよう保護者としてサポートすることを呼びかけた。また、2023/12/1に予定している学校内でのジェンダー平等をテーマとした第6回オンライン会議を開催することをリスナーに告知し、参加を呼びかけた。

ワキソ県では10月29日19時～20時にTiger FMより1時間のトークショーを実施した。SORAK代表は事業の概要やこれまでの成果を伝えた後に、布ナプキン作製活動を継続していくためには布地などの材料の確保が必要であることを訴え、保護者や関係者に協力を求めた。また、費用対効果が高く、環境にも優しい布ナプキンをこれまで以上に活用していくようにリスナーに奨励した。学校内でのジェンダー平等をテーマとした第6回オンライン会議について告知し、リスナーに参加するように呼びかけた。



Tiger FM でラジオトークショーを行う SORAK 代表

ブタンバラ県では10月20日にVoice of Butende、Voice of Kikambweより1回ずつ、計2回のHappy-padの広報を主な目的としたラジオトークショーを実施した。

地域住民に向けてプロモーションセンターで布ナプキンが入手できることを伝え、月経時の衛生管理について啓発した。また、保護者に対し、当事業が行っているように男子女子どちらに対しても教育することがいかに重要であるか、彼らが習得した知識と実践を元に情報を伝えるアクターとなり、学校や地域で月経時の衛生管理を促進していくと説明した。



ラジオトークショーを行うブタンバラ県チーム

2. 女子の教育推進、布ナプキン利用者の増加を目的としたラジオスポットメッセージ（コマーシャル）の放送

月経時の衛生管理、女子生徒の教育、生理用布ナプキンに関するラジオスポットメッセージを以下の通り放送した。

- ムベンデ県：Luna FM（1日6回）
- ワキソ県：Voice Kiryagonja（1日10回）
- ブタンバラ県：Voice of Butende（8回）、Voice of Kikambwe（8回）（各早朝4回、夜4回）

3. 対象校においてモニタリングの実施

ムベンデ県では10月15日に月経時の衛生管理トレーニング、月経時の衛生管理クラブの状況、布ナプキン作製トレーニングなどの活動の進捗状況を把握することを目的に対象校を視察訪問した。

主な気づき

- 平均して各校に2名ずつ布ナプキン作製に関して熟知している生徒がいた。
- 生徒たちは月経中の対処方法を習得していた。
- 女子生徒たちは月経の問題に対して恥ずかしがることなく、必要な時には助けを求めることができていた。
- 男子生徒は協力的であり、女子生徒をからかうことはなくなっていた。
- 当事業で作製したブックレットやマニュアルを教員たちが月経時の衛生管理セッションの中で使用していた。
- 月経の緊急時に使用できる緊急用生理用品を学校に設置していた。
- ガイダンスやカウンセリングで体の洗い方を学んでことにより、生徒たちの衛生状況が大いに改善した。
- Kabowa 初等学校のように緊急用の制服を置いている学校や、設置を検討している学校もあった。

課題

- 生徒数が多く、1～2台のミシンでは効果的に技術の習得が行えていないこと。
- 布ナプキン作製に必要な材料が不足していること。
- 特に乾季は水不足の課題に直面していること。

ワキソ県では 10 月 25 日～27 日にプロジェクトオフィサーが対象校 10 校を視察訪問し、モニタリングを実施した。月経時の衛生管理トレーニング、月経時の衛生管理クラブの状況、布ナプキン作製トレーニングなどの活動の進捗状況の評価を主な目的とした。

主な気づき

- a) 全対象校の男女合わせて多くの生徒が月経時の衛生管理に関する知識を有していた。
- b) 布ナプキン作製トレーニングの結果、Ssayi Bright 初等学校のある保護者は布ナプキン作製のスキルを習得しエキスパートになった自身の息子に感心し、地域でも彼の技術を維持できるようにミシンの購入を計画していた。
- c) Ssayi Bright 初等学校の生徒たちは、ミシンの練習がある日は欠席しない。
- d) 各校少なくとも 4 人はミシンを使いこなせていた。

課題

- a) Maganjo UMEA 初等学校では、生徒数が多く月経時の衛生管理セッションを木の下で実施しているため、雨の日は活動できないことがある。
- b) 布ナプキン作製に必要な生地などの材料の確保は全ての学校において課題である。保護者に対し協力を求めている。
- c) 保護者は私立学校の方が子どものために良いと考え転校させてしまうことがよくある。そのため月経時の衛生管理クラブに新規加入した者が転校させられてしまうことがあったが、常時部員を募集することで解決を図っている。
- d) 月経時の衛生管理クラブに 7 年生が多く在籍する学校は、7 年生が学業に専念する傾向があることから部員が不足している傾向がある。
- e) 男性教員の中にはあまり積極的でなく、女性教員に任せてしまう教員もいるため、協力し合うように奨励した。
- f) 多くの学校で中間テストや卒業試験の準備期間であったため、生徒との交流は制限されたが、時間に余裕のある生徒数名に協力を求めた。
- g) 雨季には全ての学校で欠席が増え、セッションを延期するなど月経時の衛生管理トレーニングのスケジュールに遅れが生じた。
- h) Kitanda Church of Uganda 初等学校では嵐により教室の壁が崩壊し、月経時の衛生管理クラブの活動やミーティングを行う場所が制限されたが、その後、教育省が壁の修復を行った。

4. Happy-Pad プロモーションセンター

トレーニングを受けた受講生は地域住民や生徒たちに布ナプキンを広める役割も担っている。

	
<p>教員が作成中の布ナプキンを点検している。</p>	<p>教員がミシンの修理方法を伝えている。</p>
	
<p>オーバーロックミシンの使い方を学んでいる。</p>	<p>生地の採寸方法や断裁方法を学んでいる。</p>
	
<p>教員が生徒にナプキンの形成方法を教えている。</p>	<p>教員が受講者に布の断裁方法を教えている</p>

プロモーションセンターでは、10 月中に 58 名に対しトレーニングを行い、280 枚のナプキンを生産、50 枚を販売した。(3 月からの累計 生産 1401 枚、寄付 100 枚、販売 492 枚)

事業全体の効果的な影響

- 生徒間で布ナプキンの作製を複製することが増えている。
- ほとんどの生徒達は布ナプキンの使用に適応しつつある。
- ラジオトークショーのリスナーは学校の当事業の活動に感謝を示した。(ワキソ県・ムベンデ県)
- Christ the King 初等学校の保護者は、SORAK の活動に感謝し、月経中の女子生徒をサポートしていくことに賛同してくれた。(ムベンデ県)
- 校長や生徒たちは、布ナプキン作製など学校で取り組んでいる事業の活動に感謝をしていた。

課題

- 布ナプキン作製に必要な生地などの材料の確保はほとんどの学校において大きな課題である。
- ほとんどの学校では期末試験や卒業試験の準備期間であったため、今回のモニタリング訪問中にはあまり協力が得られなかった。（ワキソ県・ムベンデ県）
- ミシンが壊れた際に修理できる常勤の技術者が必要とされている。（ブタンバラ県）

教訓

- 保護者に対しては機会がある度に月経時の衛生管理について継続して啓発していく必要がある。
- 学校に十分な数のミシンがあれば、より多くの生徒がより多くのナプキンを生産することができる。
- 全てのミシンの故障に対応可能な常勤技術者がいれば、より多くの生徒がより多くのナプキンを作製することができる。

提案

- 布ナプキン作製に必要な材料を確保できるように入手方法を模索すべきである。
- 学校はより多くの生徒が布ナプキン作製方法を学べるように、より多くのミシンを入手するための方法を考えるべきである
- 他の県の学校の実践を学べるように、学校間での訪問を積極的に行っていくべきである。